

日本老年歯科医学会第 29 回学術大会が盛会裡に終了

第 29 回学術大会準備委員長 北川 昇

さる 2018 年 6 月 22 日・23 日の 2 日間、きゅりあん（品川区立総合区民会館）にて、「高齢者の口腔医学」というメインタイトルで日本老年歯科医学会総会・第 29 回学術大会が開催されました。

今回は特別講演、教育講演 2 演題、シンポジウム 11 演題、さらに、課題口演 10 演題、一般口演 52 演題、優秀ポスター発表 15 演題、一般ポスター発表 128 演題という非常に充実した内容でした。メインシンポジウムは日本有病者歯科医療学会、日本障害者歯科学会と本学会との 3 学会合同シンポジウム「脳卒中患者の老年口腔医学」で他学会とリンクしたグローバルな内容で好評でした。また、日台老年歯科医学会合同シンポジウム「高齢者の MRONJ（薬剤関連顎骨壊死）の最新像」や日本歯科医学教育学会共催シンポジウム「超高齢社会に対応できる臨床能力の養成プログラムを考えるーICT を活用した共通の準備教育と多様な臨床実習の実施」が開催され、本学会の国内外における幅広い分野の活動と連携を改めて認識することができました。

特別講演は「人生の最終章を輝かせる緩和ケア ～全人的ケア、死から生といのちを考える～」というタイト

ルで、高宮有介先生（昭和大学医学部医学教育学）がご講演されました。先生は医師として緩和ケアに携わって 30 年以上、実際に多くの患者さんとの出会いとともに、いくつもの別れを経験されています。そのなかで、「この仕事を続けてきた原動力は、亡くなった患者さんが遺した言葉や行動である。それらは大きな贈り物となっている。末期がん患者というと弱々しいイメージがあるが、皆、潜在的な凄いエネルギーをもっている。その力を引き出すというところがおがましいが、その人自身のいのちの輝きを支えることができるのは、緩和ケアに携わる者の遣り甲斐でもある」という言葉はたいへん重く、実際の臨床経験からのお話は心に響く内容でした。今回の大会にふさわしく素晴らしい講演だったと思います。

最終的には約 1,900 人の方々にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

最後になりましたが、ご参加、ご協力いただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、会場の混雑などでたいへんご不便をおかけしましたことを心から深くお詫び申し上げます。



佐藤裕二大会長と櫻井 薫前理事長



メインシンポジウムの先生方



会員懇親会での乾杯の瞬間



特別講演講師の高宮有介先生



日台老年歯科医学会合同シンポジウム



会員懇親会会場にて（大会校の皆様）



多職種連携シンポジウムの先生方



学術シンポジウムの先生方



日本歯科医学会
会長賞受賞記念
祝賀会での森戸
光彦名誉会員と
菅 武雄先生

日本老年歯科医学会第 29 回学術大会・シンポジウム開催報告

※学術大会でのシンポジウムの一部の内容をご紹介します

【メインシンポジウム開催報告】

大会の 1 日目に「脳卒中患者の老年口腔医学」というテーマでメインシンポジウムが開催されました。岩淵博史先生からは脳卒中患者の口腔管理と全身管理や摂食・嚥下障害などさまざまな障害への対応について、平塚正雄先生からは脳卒中患者の ADL 能力に準じた歯科の対応について、古屋純一先生からは多職種連携・地域連携と脳卒中患者の口腔機能管理の関係についてご講演いただきました。その後のディスカッションでも活発な討論が行われました。(磯部明夫)

【多職種連携シンポジウム開催報告】

大会 2 日目、「地域包括ケアシステムに関わるための第一歩 一成功と失敗に学ぶ多職種連携」をテーマに開催されました。座長に高野直久先生（日本歯科医師会）と渡部芳彦先生（委員），基調講演に青木 仁先生（厚生労働省），演者に有松ひとみ先生（大分県歯科衛生士会），細野 純先生（細野歯科クリニック / 日本歯科医師会），前田佳予子先生（日本在宅栄養管理学会）をお迎えし、活発な議論が行われ、盛会のうちに終了しました。

(岩佐康行)

【日台老年歯科医学会合同シンポジウム開催報告】

台湾老年歯科医学会（TAGD）との交流協定を結んで以来、2 回目の合同シンポジウムとなる今回は、講師に岸本裕充先生（兵庫医科大学）と、新しく TAGD の会長に就任された鄧 延通先生（高雄医学大学）のお 2 人をお迎えし、「高齢者の MRONJ（薬剤関連顎骨壊死）の最新像」のテーマにて行われました。MRONJ は両国の高齢者歯科医療で共通の懸念事項であるだけに、大ホールに多くの参加者を集め、最新情報をコンパクトにまとめた知識共有と国際交流の有意義なシンポジウムとなりました。(小野高裕)

【学術シンポジウム開催報告】

2016 年に本学会から発表された「口腔機能低下症」は、本年 4 月に保険収載を果たしました。本シンポジウムにおいて、飯島勝矢先生からはオーラルフレイルと口腔機能低下症を取り巻く環境を踏まえつつどのように国民に浸透させていくかのお話をいただきました。また、上田貴之委員、津賀一弘委員、松尾浩一郎委員により、現行の評価基準の再評価と今後の議論の方向性を示しつつ議論しました。今後、「口腔機能低下症」が適切に認識され、患者さんの機能回復に役立つよう、会員の皆様のご協力をお願いいたします。(金澤 学)

第 5 回歯科衛生士関連委員会主催セミナー開催報告

歯科衛生士関連委員会委員長 石黒 幸枝

2018 年 6 月 24 日（日）に AP 品川にて、セミナー「歯科衛生研究の基礎」と「医療統計の基礎」を開催しました。倫理審査委員会委員長の山崎 裕先生より歯科衛生士として知っておくべき研究倫理と利益相反についてのご講義を、午後からは演習編として、那須郁夫先生より統計の基礎についてのご講義と統計分析の実践指導をしていただきました。そのほか武井典子日本歯科衛生士会会長からの講義、小原由紀委員からのテーマの立て方などに関する講義があり、内容の充実したセミナーとなりました。



セミナーの様子

2018 年度老年歯科医学研究助成対象研究紹介

老年歯科医学における基礎、臨床、疫学研究において、新知見の得られる可能性をもつ革新的な研究プロジェクトの発展促進を図ることを目的として、2018 年度より老年歯科医学研究助成制度がスタートいたしました。

会員より多くの研究課題を提案いただき、2018～2019 年度助成対象研究を 2 件決定いたしました。

研究成果を大いに期待しております。

・松尾浩一郎（藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科），他
「回復期リハビリテーション病棟における口腔機能低下症への介入効果」

・梅本文二（福岡大学医学部歯科口腔外科学教室），他
「パーキンソン病患者の嚥下機能と服薬状況に関する調査研究」



左から松尾浩一郎先生、櫻井 薫前理事長、梅本文二先生